

## 第2章 文書データの分析

### 第1節 教祖の継承とことば：真如苑の内外時報についての分析(川端 亮)

#### はじめに

宗教教団の研究においては、教典や教団の広報誌をデータとし、その教団に対する理解を深めることが多い。そのほかにも、教団信者に対するインタビューや調査票を用いた調査がデータとして活用される場合もある。いずれのデータもテキストデータ化し、コーディング、分析という本研究で扱っている方法を適用することが可能である。その中で、分析単位が明らかでないもの、たとえば調査票を用いた調査における自由回答では、分析単位は調査対象個人個人であり、このような場合は第1部第1章で紹介した AUTOCODE を用いることがまず、考えられよう[1]。それに対して、長文で分析単位がはっきりしないデータの場合、たとえば機関紙を扱うときには、第1部第2章で紹介、説明された、KTCoder を用いたテキストの処理を試みることができる。本節では、宗教法人真如苑の発行する『内外時報』[2]という機関紙を対象として、KTCoder を用いたコーディングの例を紹介する。

#### 1. データの入力方法と注意点

分析に用いたデータは、『内外時報』の1985年1月発行の第400号から1996年12月発行の544号までで、それらをテキストデータとして入力した。その大部分を入力したが、一部省いた部分もある。それは、過去1ヶ月間の苑内のできごとを簡単に紹介した「苑内日誌」の欄や何日にどのような行事や修行の予定があるかを記した「毎月の予定」の欄などである。他の大部分はそのまま入力した。入力にあたっては、まず、スキャナーで読みとり、それを日本語認識ソフトでテキストデータに変換した。もちろんこのままでは認識ソフトによる誤認識が5 - 10%ぐらい存在する。そこで、テキストデータを人間の目で確認し、元の『内外時報』と照らし合わせる作業が必要である。このチェックの作業を異なる2人の人に依頼し、精度を高めた。この作業は、学生のアルバイトに依頼したが、相当たいへんな作業であった。その理由の1つには、『内外時報』には、真如苑内で使われる特殊な用語や宗教の専門的な用語、それも普段使わないような漢字を用いた語が頻出するため、これらの用語に慣れるまでは、チェックがなかなか進まなかった。また、とくに注意すべきことは、たとえば、「つ」と「っ」、「り」と「リ」などの違いは、見落としやすいものの注意深くチェックすれば検出が可能であるが、「データ」と「デ - タ」のような、一や

漢字の「二」とカタカナの「ニ」、数字の「0」と記号の「」など、いくら注意していてもほとんど判別できないものもある。これらは認識ソフトも間違いやすいもので、人間の目でも確認しにくい。これらに関しては、エディターの検索の機能を使うなど特殊なステップを設けないと正確を期することは難しいであろう。今回は、これらの見落としやすいものを含む重要な語はとくになかったため、そのために特殊な正確を期する作業を行うことはしなかった。

さらにHTML化の作業が必要である。まず、号数をH1のタグで括る。つまり、400号なら、`<H1>0400</H1>` となる。H2以下のタグは、『内外時報』の見出しにしたがう。『内外時報』は、新聞のように見出しが階層的にもうけられているため、原則的にそれにしたがって、HTMLタグをつけた。この作業も4人の学生アルバイトに分担してもらったが、階層構造のつけにくい箇所や時期によって階層の付け方が変化している部分もあり、統一した指示を出すことに苦労した。これは、手作業のコーディングを多数の者である場合に、その基準を統一する苦労と同じ種類の困難であった。最初のうちは全員で集まって問題点を出し合いながら作業をし、その後も定期的に確認をしながら作業を進めた。このHTML化の作業はある程度自動化することは、信頼性を高める上でも必要であると思われる。

このような作業をして得られたテキストの量は、各号およそ20キロバイトから30キロバイトの間であり、合計して、144号（ほとんど写真のみの号はのぞく）の総量は、およそ4.4メガバイトとなった。これらを400号から499号までを1400.htmというファイル名で、500号から544号までを1500.htmというファイル名で保存した。

以下は、分析に用いた本文テキスト1400.htmの冒頭の一部である。

```
<BODY>
<H1>0400</H1>
<H2>今月の苑歌</H2>
み仏は 涅槃経と共に 永遠に 此の世に在りて 衆生救うなり
<H2>春 氷 花</H2>
厳寒の勢を誇った渓谷に
たくさんの春花氷が咲いた
```

（省略）

```
殻破り野に歓声あげる日を
首長くして待っている
```

```
<H2>内外ニュース</H2>
```

```
<H3>宇宙を救う荘厳にむけ 元旦会法要に誓いをこめる</H3>
```

昭和六十年元旦、澄みわたる霊気のなか希望にみちた新年は明けた。

未明の真澄寺奥の院に清浄な大護摩の聖火はあがり、午前十時、真如教主さまのもと、両法嗣・真聰さま、真玲さまが第一精舎、第二精舎の導師座につき、元旦会法要を執行。おわって、教主さまのますまずのご健祥を念じ、一層のご教導を願い新年のご撰撈を申しあげた。

（省略）

```
<H1>0401</H1>
```

```
<H2>今月の苑歌</H2>
```

道ぞなし 空に道つく舵人は 舵にいのちを 籠むるものなり

<H2>今月の思惟</H2>

<H3>涅槃会の月にたしかな一步を積みあげる</H3>

きびしい寒さのうちにも、はや立春、このころになると、辺りにはどこか春めいた陽気が感じられてまいります。

<H4>さとの苑にかえる</H4>

寒行をおえ、一年をふみ出す二月はまた、仏教徒がわすれてはならない日、つまり、二月一五日、仏教の三仏会のひとつである「涅槃会」をおむかえします。

(以下省略)

## 2. KTCoder によるコーディング

### 2.1 分析の目的

さて、4 M以上もの大量のテキストから、どのような知識を抽出することができるだろうか。パソコンによる情報抽出で得られるものは、限られることは間違いない。しかし、人間の目で読むものとは異なる何かを得られないだろうか。それを考えることが、KTCoder の使い道、特色を明らかにすることにつながる。

実際の順番は前後するが、最初に『内外時報』を入力する範囲を定めるときに考えたのは、真如苑を創設した教祖伊藤真乗（真如苑では、教祖と呼ばず、教主と呼ばれる）の生前とその後での変化である。宗教社会学の中で、教祖の継承というのは、1つのテーマである。そこでは、実際に誰が継承するかということがよく調べられている。またうまく継承されずに分裂したり、衰退したりする事例も報告されている。このように教祖が亡くなり、教団が継承されるという時点は、いうまでもなく教団にとっては1つの大きなポイントである。真如苑も教団草創期、発展期にかけてのいくつかの困難を乗り越え、1989年に教主の死という乗り越えなければならない時期を迎えた。そして、1991年には、三女伊藤真砂子が継主さまとして教団を担っていくことを明示した真如教団継承法要が行われ、新体制が名実ともにスタートする。この教主の死の前後を通して、少なくとも教団のトップを指す名称が変わるのであり、それに伴って、何らかのものが変わっていくのか、それとも変化がないのかという興味深い問題が生じる。

『内外時報』は、教団の信者が読むものであり、情報の伝達紙であるとともに教団の教えを説くものである。したがって、如何に教主の死を教団の中に取り込み、次の世代に伝えていくのかも興味が惹かれるところである。

このような問題を解決するために、機械を使わない方法があろう。そのためには読む文章の量が少ない方がよい。逆に言うとかかなり膨大な量の文章の場合は、人間が読んで正確に理解を積み重ねていくことは困難で、機械を使った方が粗いであろうが、有益なものが得られる可能性がある。機械を使う場合でも今回のように4メガバイト以上もの多くの文章を入力する必要はないかもしれない。本来はまず、サンプリングすることを考えるべきであろう。その点に関しては、今後検討したい課題である。ただ、今回の場合は、与えら

れて研究費内で全部を入力することが可能であったので、全部を入力し、集計した。今後、サンプリングについても検討できるからである。

## 2.2 コーディング作業と集計

KTCoder を用いるにあたって、辞書ファイルを用意することも必要である。複合語辞書は、第2部第1章第3節の分析で用いた辞書ファイルから KTCoder で用いられる字種切り方式によって抽出される語は省き、異なる字種にまたがる抽出すべき語を残した。また、その他にも抽出すべき語はないかを調べた。調べた号は、最初の 400 号、半ばの 470-475 号、510-512 号である。半ばの 470 号では、辞書ファイルに未だ登録されていない抽出すべきと思われる語が、10 語以上にも上ったため、475 号まで、継続して抽出すべき語がないかを調べた。後半の 510 号からは、抽出すべき語は数語程度であったため、512 号でうち切った [3]。もちろん、正確を期するなら、全号にわたって抽出すべき語を調べるべきである。しかし、ある程度の精度で、大量のデータをコーディングするという KTCoder の発想からチェックの程度は、上記の程度にとどめた。

停止語辞書と復活語辞書については、KTCoder を何回か試しながら、作成していった。

さて、これらの辞書ファイルを用意した上で、KTCoder によって、コーディングを実行した。変動をつかむため、1年単位で、まとめた。なぜなら、たとえば教主さまの誕生日のある3月には、誕生祭にあたる行事があり、このときの『内外時報』には、その様子が記載されるし、また教主さまにゆかりのある話などが取り上げられることが多い。したがって、この号においては、「教主さま」ということばは、数多くでてくることになる。このように各号ごとでは、各月によって行われる行事によって、出現することばの頻度が大きく左右される。1年を単位とするとそのような行事による変動はなくなるはずである。そこで、1年を単位とした。

さて、KTCoder は、抽出語を位置情報とともに出力する。その位置情報は、3つのブロックに分かれており、その第2ブロックの先頭2桁が、号数に当たる。つまり、『内外時報』の400号から、499号までの1400.htm ファイルでは、400号は、位置情報の第1ブロックが1400であり、第2ブロックの先頭が、01となり、401号では、同じく、1400,02...となる。500号から、544号までの1500.htm ファイルでは、500号は、1500,01...、501号では、1500,02... というように、各号が識別できる数字が付されることになる。

このようにして、KTCoder によって抽出された語と位置情報を含む、1400.mei ファイルと1500.mei ファイルの2ファイルを1ファイルにつなげると、全情報を含むファイルができる。これを必要なソフトに読み込んで、分析することができる。本節の分析では、SPSSの8.0.1Jのバージョンを使って、号数を表す数字から号数の変数を作り、さらに出版年の変数を作成した。

表1 発行年と抽出語数

発行年	抽出語数	パーセント
1985	25,530	10.6
1986	24,855	10.3
1987	21,081	8.8
1988	21,162	8.8
1989	22,029	9.2
1990	19,929	8.3
1991	16,604	6.9
1992	16,081	6.7
1993	18,290	7.6
1994	16,680	6.9
1995	16,026	6.7
1996	16,681	6.9
1997	5,560	2.3
合計	240,508	100.0

まず、抽出語の数を見てみると、各年ごとにかかなりの差があることがわかる（表1参照）。もっとも多いのは、1985年で、25,530語であり、もっとも少ないのは、1995年で、16,681語で、およそ3分の2という割合である。多少のこぼこはあるにしても、ほぼ年を経るにしたがって分量が減少する傾向にある。これは、新聞などと同じく、『内外時報』が次第に文字や字間を大きくしていったためであり、元々のテキストデータでもファイルの大きさはかなり違っていた。

このままでは語の出現の割合を比較することが難しいので、各年ごとに15,000語を無作為抽出することによって、比較しやすくした。その結果が表2である。この表を見ると、もっとも多いのが、「教主さま」で、3331回出現していることがわかるが、それでも全体の中で見ればわずか2%弱であり、このような分析において、%で比較するような方法は有効でないのは明らかであろう。

さて、表2に戻り、どのような語が多く出現しているかを見ていくと、「教主さま」の他に「両親さま」、「摂受院（しょうじゅいん）さま」、「両童子さま」、「継主さま」などの教主一家の人名は、上位20位以内とかなり上位にきている[4]。「教え」、「真如」、「感謝」、「喜び」、「み仏」、「祈り」、「救い」など、よく使われている。少し変わったところでは、「私」、「心」、「自分」、「自ら」などが注意を引く。

表2 抽出語の出現度数（上位50まで）

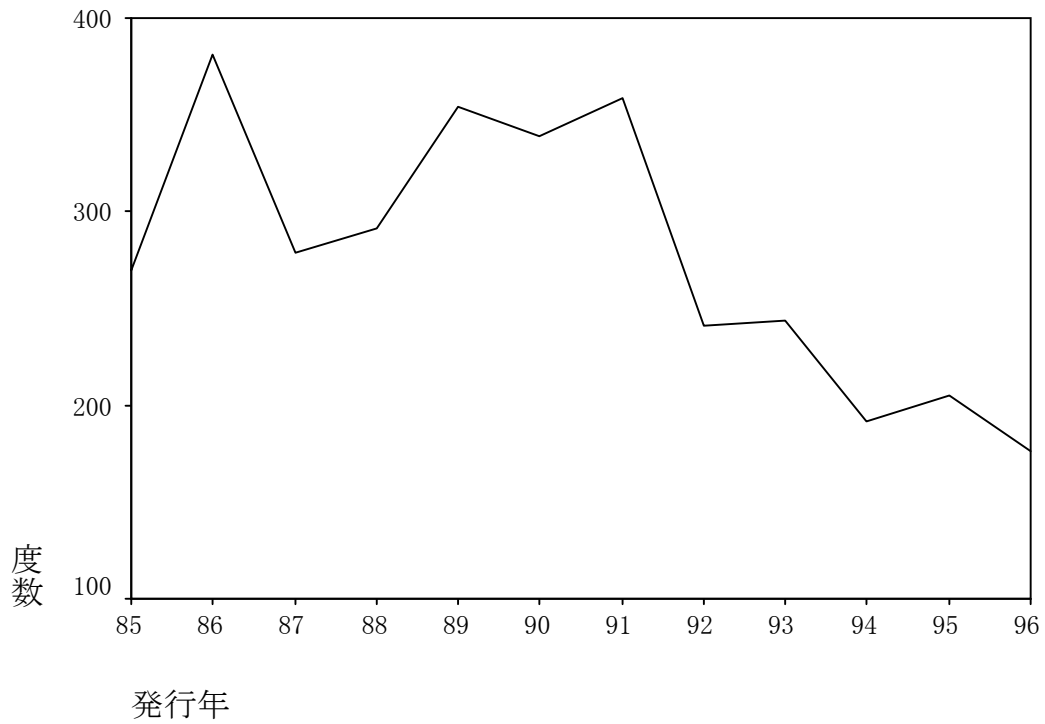
抽出語	度数	パーセント	抽出語	度数	パーセント
教主さま	3331	1.9	いただいた	539	0.3
私	2900	1.6	まこと	536	0.3
教え	2530	1.4	姿	528	0.3
真如	2349	1.3	実践	521	0.3
心	1967	1.1	真導院	516	0.3
双親さま	1479	0.8	信心	492	0.3
摂受院さま	1225	0.7	歩み	480	0.3
感謝	1111	0.6	教導院	463	0.3
喜び	1063	0.6	総合道場	461	0.3
み仏	1040	0.6	真如苑	445	0.2
祈り	975	0.5	常慧さま	427	0.2
救い	974	0.5	声	426	0.2
教徒	966	0.5	修行	406	0.2
自分	939	0.5	すべて	399	0.2
み心	894	0.5	真実	387	0.2
両童子さま	856	0.5	親苑	383	0.2
精進	819	0.5	命を	378	0.2
継主さま	717	0.4	導師	364	0.2
いただく	658	0.4	霊界	358	0.2
み親	646	0.4	出発	356	0.2
自ら	619	0.3	相承	352	0.2
信	604	0.3	世界	346	0.2
言葉	604	0.3	大願	341	0.2
子	570	0.3	親教	335	0.2
接心	545	0.3	和合	334	0.2

### 3. 語の出現率の変化

各年毎に語の出現率を見ていく。これは、SPSS で集計した各年毎の語の出現数をグラフに表したものであるが、前処理として、各年毎に抽出語の数を 15,000 語にそろえているので、これは、出現率と見なせる。

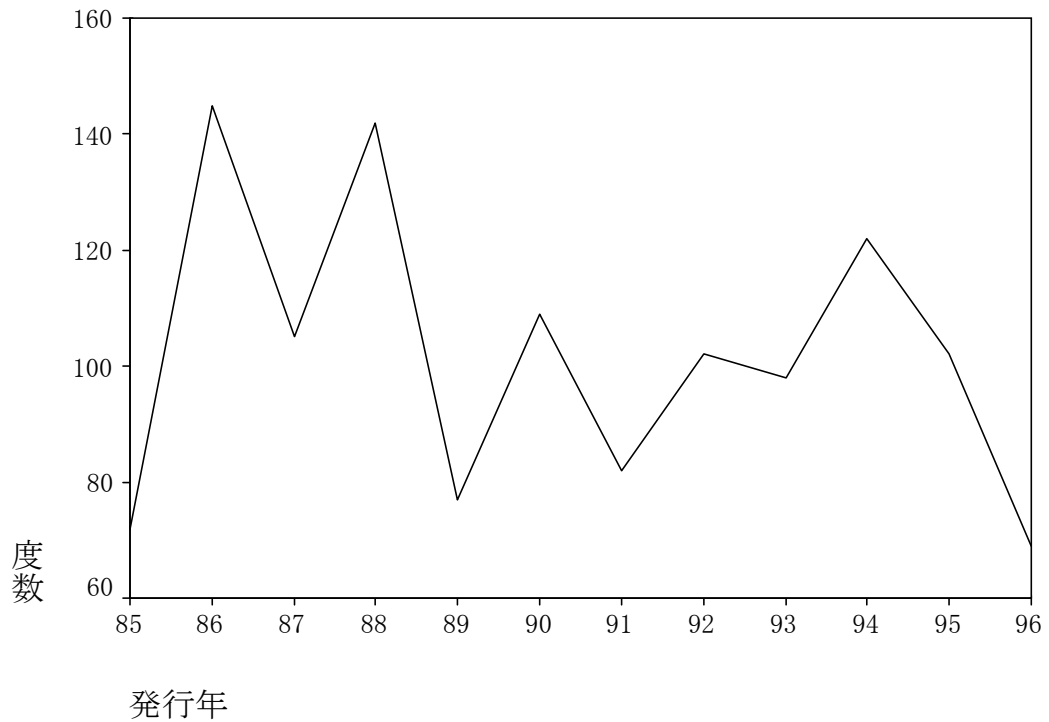
まず、「教主さま」の語の変化であろう。「教主さま」の語は、教主さまが亡くなると使われなくなるのであろうか。グラフ 1 によると、「教主さま」の語は、教主さまが亡くなる 89 年、その後の 90,91 年と度数は 300 を大きく超え、死後もよく使われているが、92 年以降、200 台へ減っている。減少したといってもその出現数は多いが、近年はもっとも多い 86 年の半分近くまで減っている。

グラフ1 教主さま



それに対して、教主さまとともに真如苑を作ってきた「摂受院さま」は、教主さまが亡くなった89年にその出現度数が大きく減り、以降も86年や88年のように140近くまで回復することはない。「摂受院さま」は、教主さまの死後、出現度数が減った語といえるであろう。

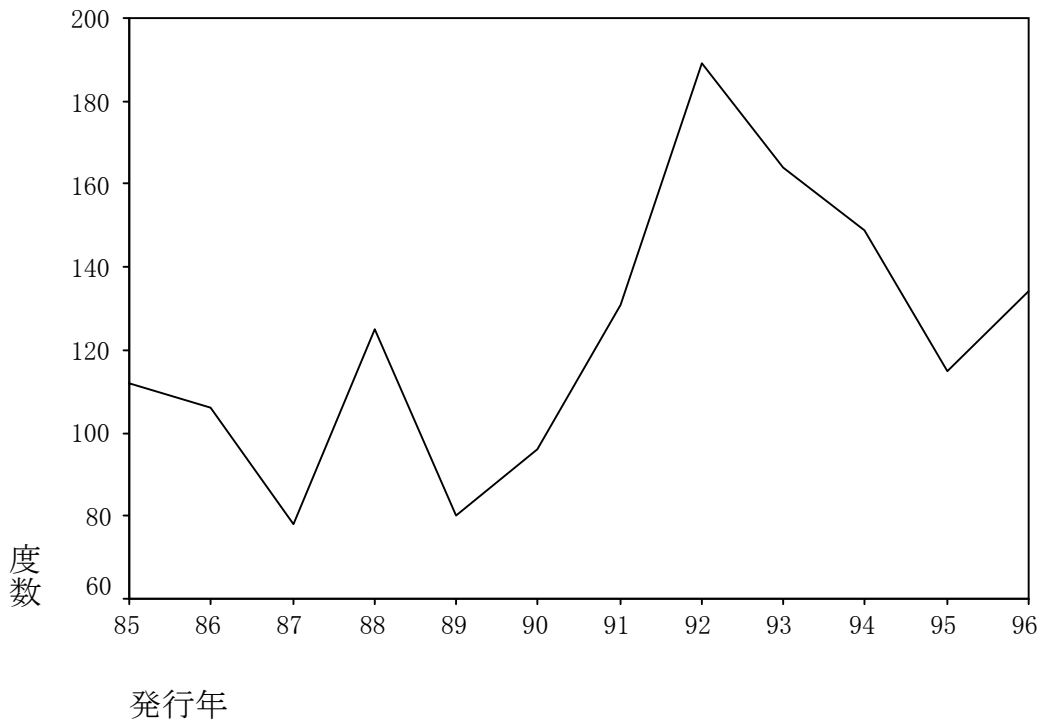
グラフ2 摂受院さま



この「教主さま」、「摂受院さま」の変化に対して、この2人の総称である「双親さま」という語は、89年以降次第に出現率が高くなり、92年にピークに達したあと、減少に向かうが、それでも89年以前よりは、出現率は高い。

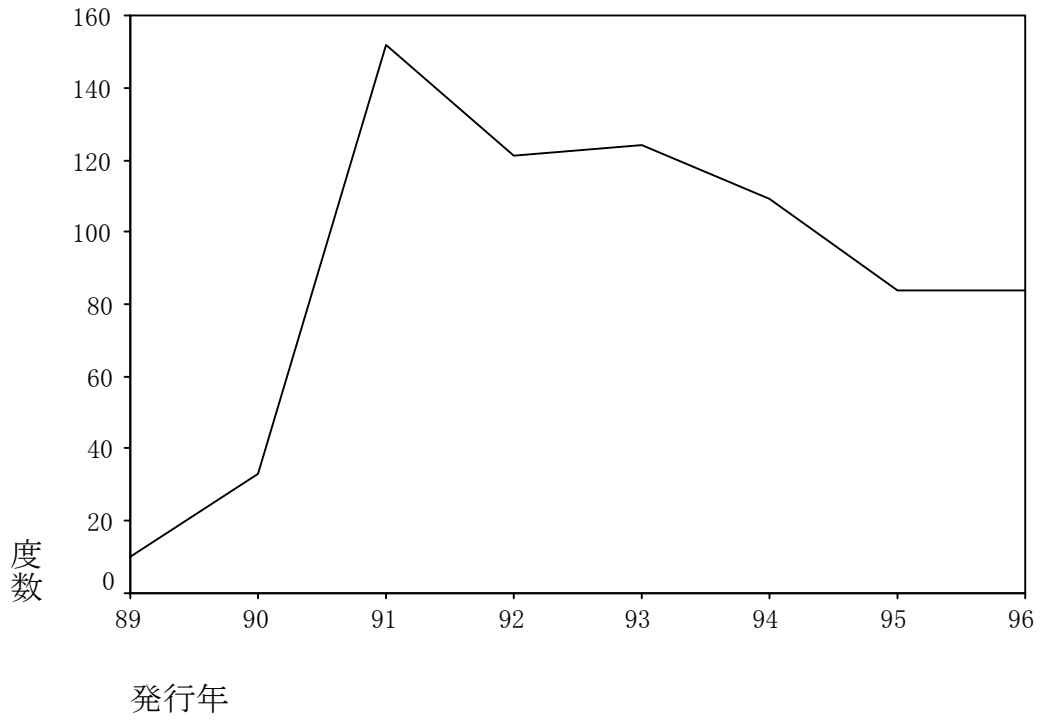


グラフ3 双親さま

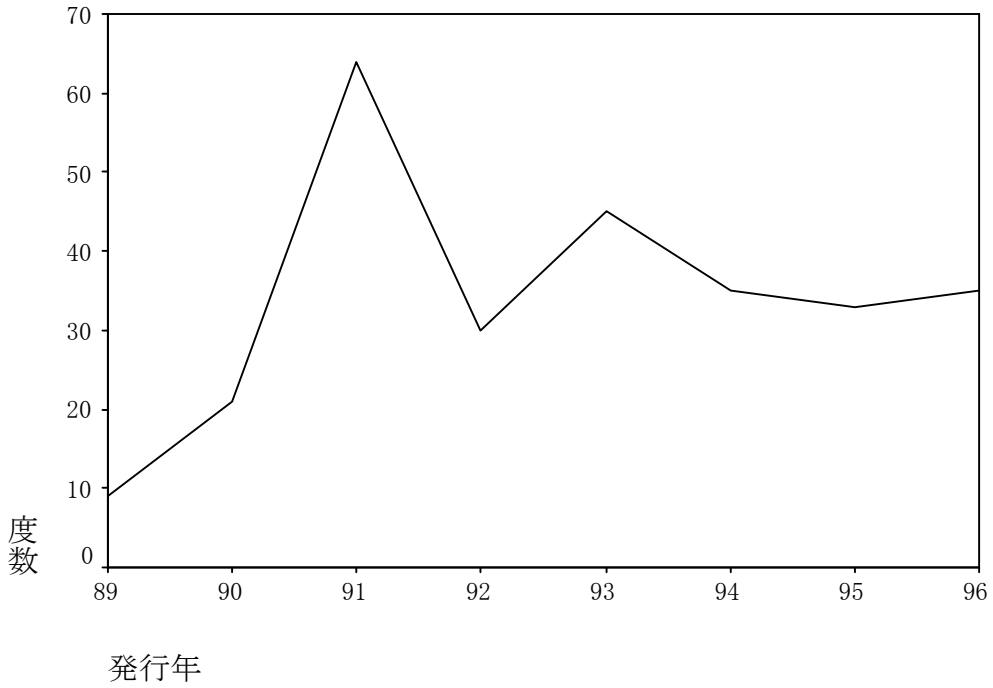


一方の2代目を指す「継主さま」の語は、89年に登場し、その出現率は急激に高くなり、91年には、150にも達し、それ以後漸減する。教主の死後、急速に普及が図られたことばであることがわかる。「雍主(ようしゅ)さま」は、これと同じパターンであるが、その出現率は、「継主さま」の約半分である。「継主さま」、「雍主さま」を指した、「両法嗣さま」は、90年以降、使われなくなっていること、「常慧(じょうえ)さま」は、90年から92年にかけて用いられていたが、93年以降はあまり用いられていないことは明瞭である。

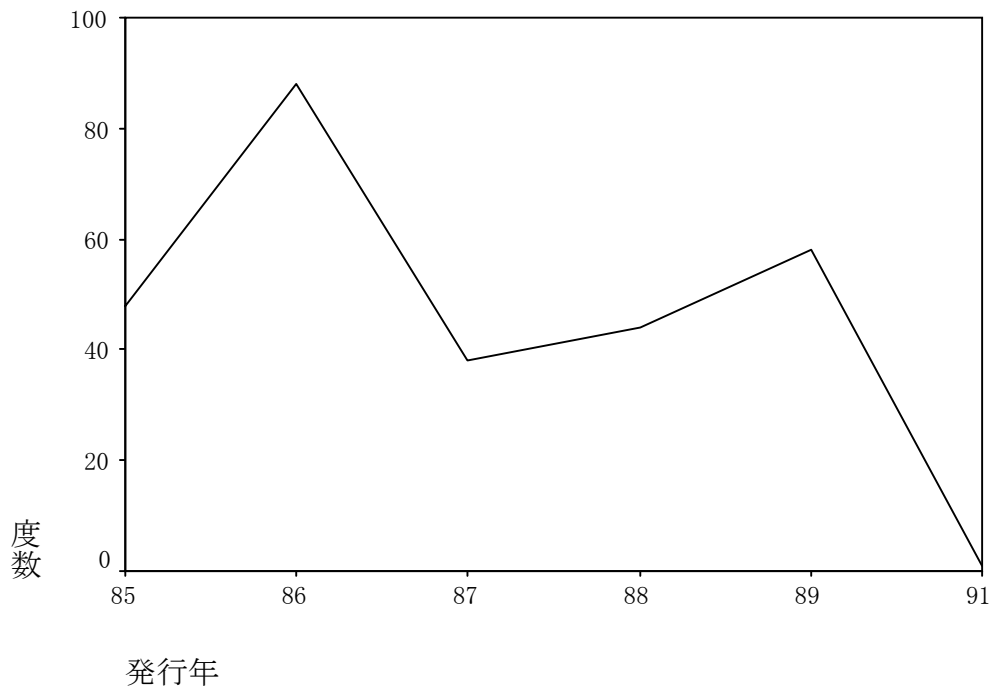
グラフ4 継主さま



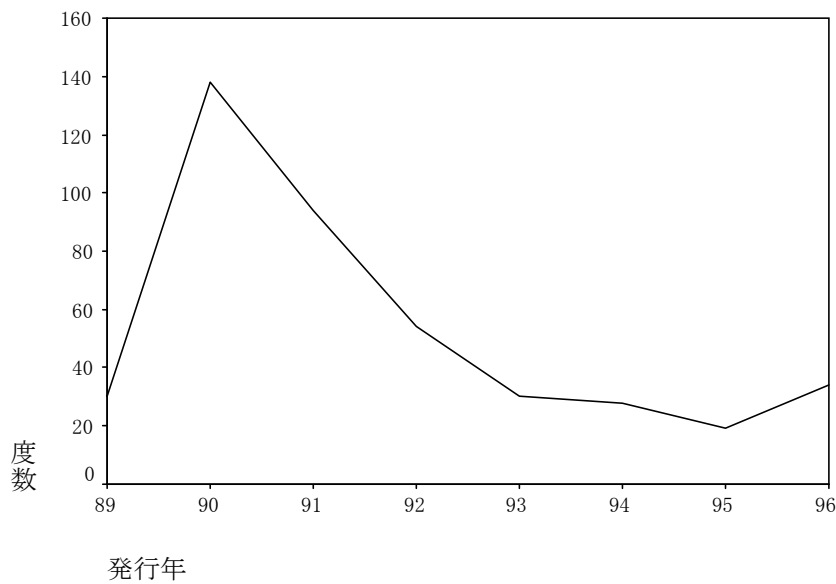
グラフ5 雍主さま



### グラフ6 両法嗣

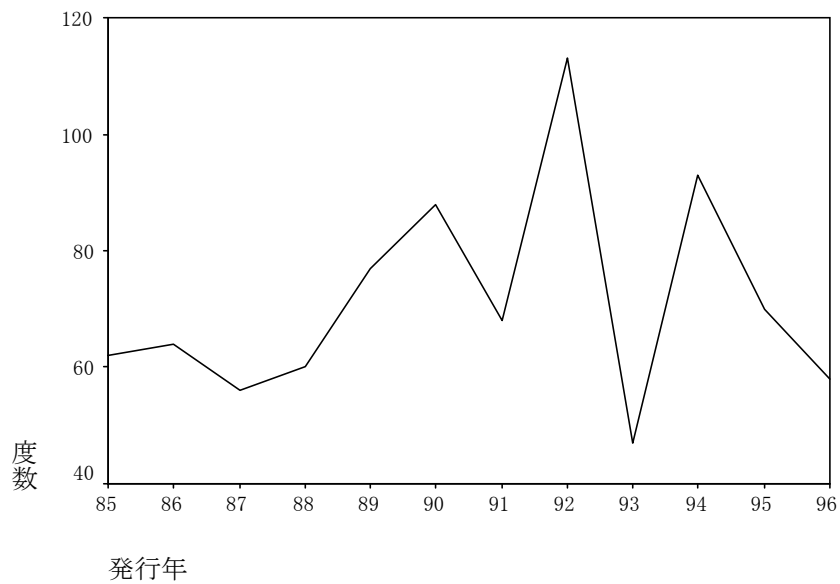


### グラフ7 常慧さま

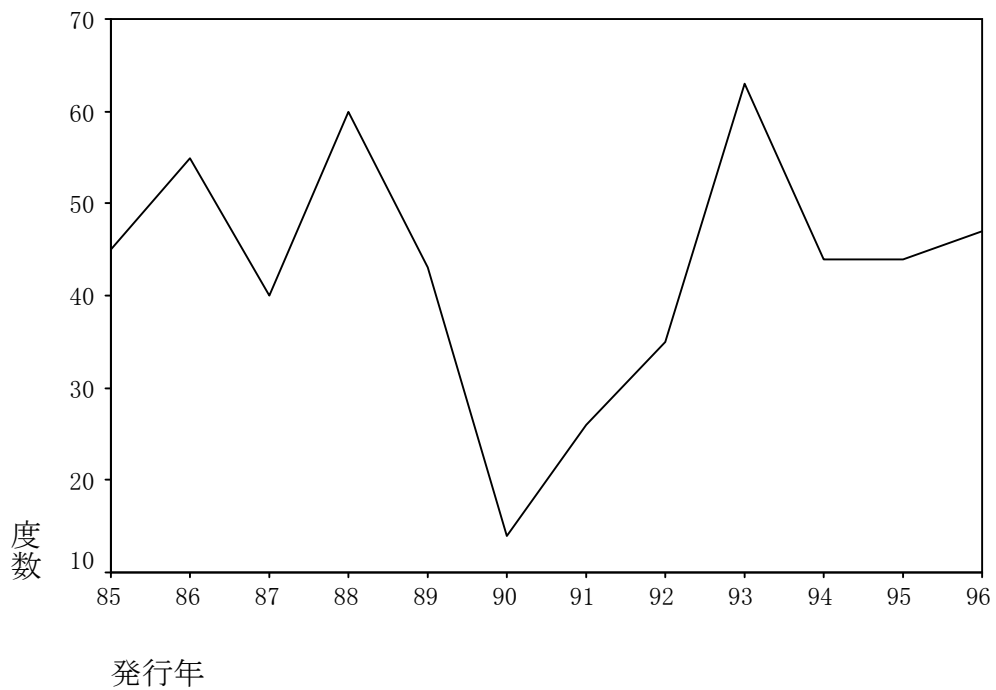


「両童子さま」は、90年代に入って変動が激しく一貫した特徴を見いだしがたいが、「真導院さま」、「教導院さま」という語は、89年から92年にかけて、非常に少なくなっている。両童子さまと関連が深い語である「抜苦代受」も90年が非常に少なく、89年、91年もかなり少ない谷になっている。「霊界」も90年以降、かなり出現率が低くなっている。

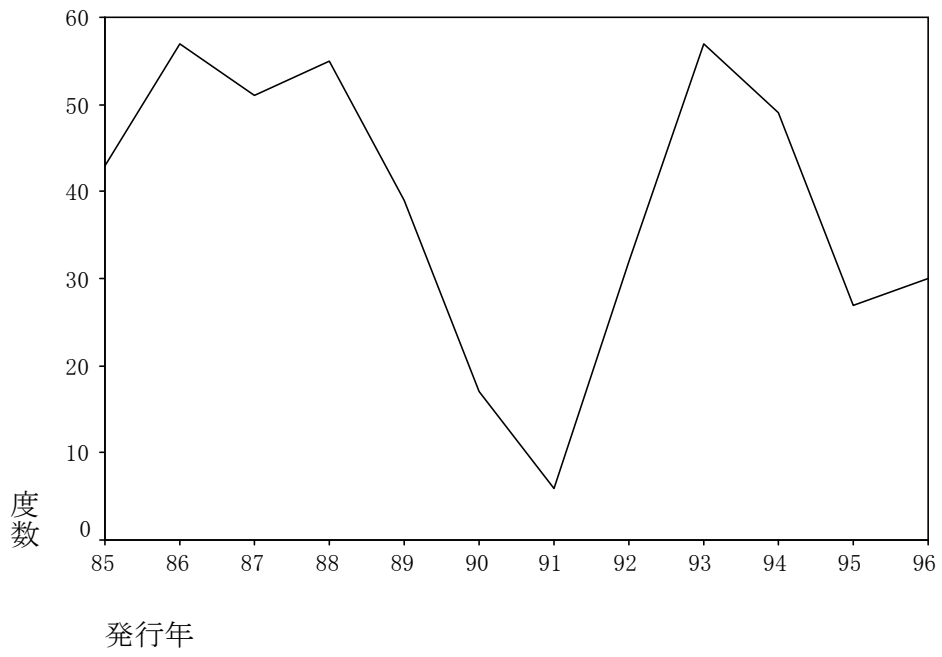
グラフ8 両童子さま



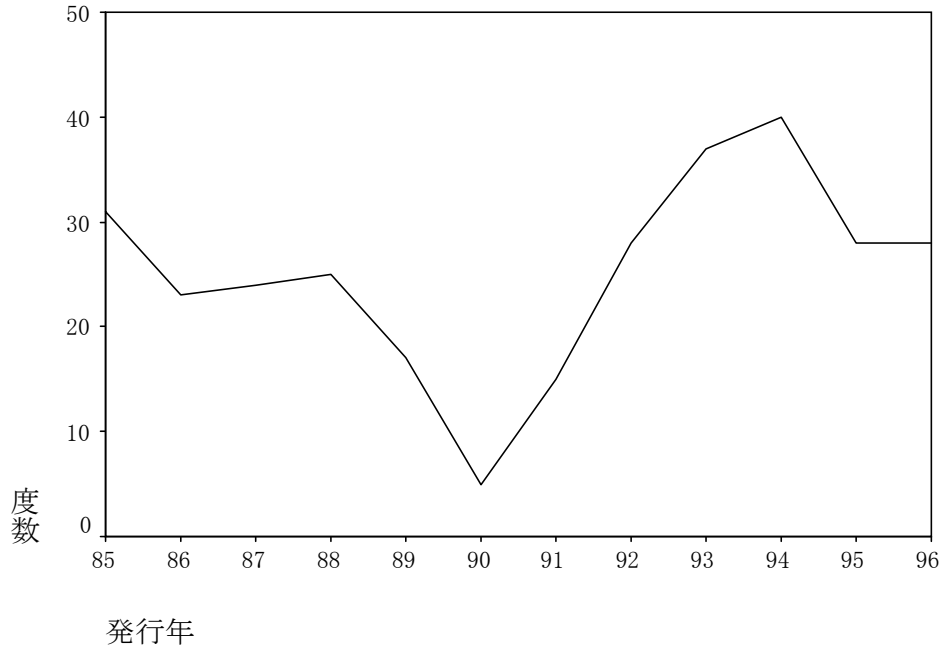
グラフ9 真導院



グラフ10 教導院



グラフ11 抜苦代受



グラフ12 霊界

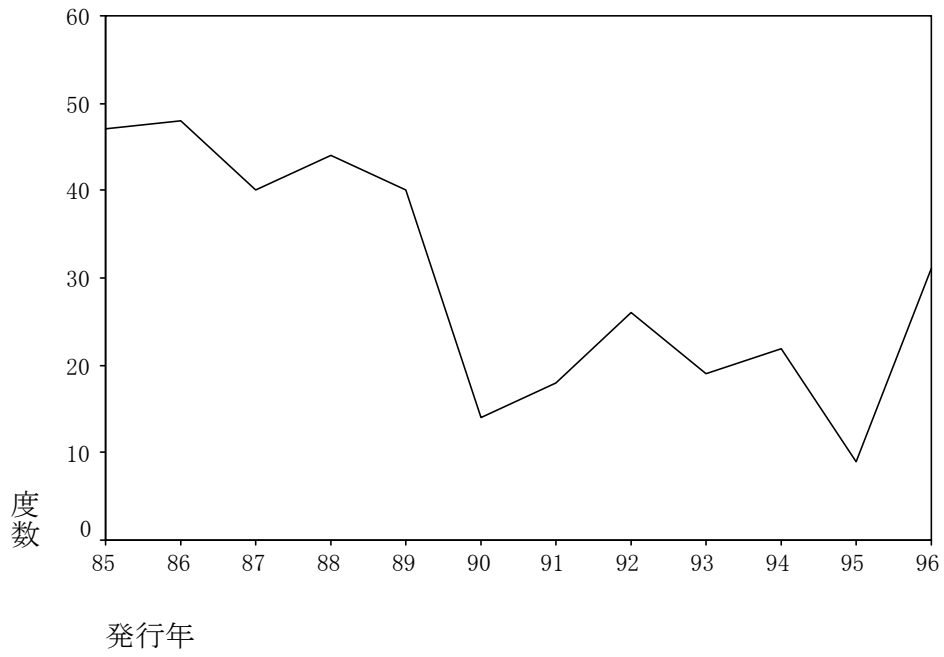


表3 語の変化

抽出語	教主時代		継承期		継主時代	
	度数	指数	度数	指数	度数	指数
教主さま	1397	25.40	648	32.40	1286	18.64
教え	1094	19.89	302	15.10	1134	16.43
私	974	17.71	282	14.10	1644	23.83
心	662	12.04	233	11.65	1072	15.54
み仏	512	9.31	70	3.50	458	6.64
真如	508	9.24	213	10.65	1628	23.59
摂受院さま	506	9.20	163	8.15	556	8.06
双親さま	477	8.67	150	7.50	852	12.35
救い	452	8.22	129	6.45	393	5.70
教徒	428	7.78	160	8.00	378	5.48
喜び	407	7.40	119	5.95	537	7.78
感謝	407	7.40	150	7.50	554	8.03
み心	371	6.75	126	6.30	397	5.75
精進	358	6.51	94	4.70	367	5.32
折り	358	6.51	124	6.20	493	7.14
自分	294	5.35	80	4.00	565	8.19
両童子さま	289	5.25	129	6.45	438	6.35
いただく	257	4.67	68	3.40	333	4.83
まこと	248	4.51	83	4.15	205	2.97
両法嗣さま	247	4.49	29	1.45	1	0.01
信	246	4.47	107	5.35	251	3.64
教導院	240	4.36	23	1.15	200	2.90
真導院	235	4.27	25	1.25	256	3.71
自ら	230	4.18	112	5.60	277	4.01
言葉	226	4.11	95	4.75	283	4.10
総合道場	217	3.95	65	3.25	179	2.59
霊界	216	3.93	19	0.95	123	1.78
実践	214	3.89	87	4.35	220	3.19
接心	214	3.89	45	2.25	286	4.14
真実	208	3.78	58	2.90	121	1.75
信心	203	3.69	54	2.70	235	3.41
いただいた	191	3.47	78	3.90	270	3.91
み親	95	1.73	233	11.65	334	4.84
常憲さま	0	0.00	196	9.80	231	3.35
宇宙	116	2.11	103	5.15	98	1.42
歩み	179	3.25	89	4.45	212	3.07
大願	51	0.93	79	3.95	211	3.06
継主さま	0	0.00	77	3.85	640	9.28
大宇	7	0.13	77	3.85	169	2.45
子	149	2.71	66	3.30	355	5.14
姿	150	2.73	74	3.70	304	4.41
真如苑	133	2.42	53	2.65	259	3.75
声	127	2.31	59	2.95	240	3.48
雍主さま	0	0.00	43	2.15	229	3.32
濟摂	7	0.13	34	1.70	227	3.29
和合	120	2.18	51	2.55	163	2.36
とりくみ	140	2.55	40	2.00	139	2.01
所屬	130	2.36	38	1.90	130	1.88
抜苦代受	117	2.13	12	0.60	172	2.49
摂受	128	2.33	19	0.95	111	1.61
捧げ	45	0.82	59	2.95	163	2.36
温か	90	1.64	50	2.50	147	2.13
経親	97	1.76	24	1.20	129	1.87
創源	0	0.00	61	3.05	140	2.03
定記	0	0.00	53	2.65	185	2.68
靈言	126	2.29	33	1.65	168	2.43
お助け	62	1.13	9	0.45	166	2.41
因縁	62	1.13	19	0.95	119	1.72
歡喜	65	1.18	26	1.30	89	1.29
先祖	70	1.27	14	0.70	96	1.39
遷化	38	0.69	50	2.50	87	1.26
涅槃	76	1.38	19	0.95	73	1.06
親苑	190	3.45	43	2.15	150	2.17

教主さま一家とそれときわめて関連の深い語については、グラフで見えてきたが、それ以外の語で、出現率の高かった語を表3の中から注目して、見てみよう。時期区分は、400号から教主さまが存命中の454号までを教主時代とする。第2期は、455号から474号までで、このときに真如教苑継承法要が行われ、継主さまが真如苑を継いだことが内外に示されたときであり、この時期を継承期と呼ぶ。その後が第3期で、475号から544号までで、これを継主時代とする。それぞれの時期ごとに各抽出語の出現度数を示した。各時期は、それぞれ期間が異なる。したがって、度数で語の出現する割合を比較することはできない。そこで、各時期ごとに含まれる『内外時報』の号数で除して、指数を作成した。各時期に含まれる号数は、教主時代が55号、継承期が20号、継主時代が69号である。

他の2つの時期に比べ、教主時代に多い語は、「教え」、「み仏」、「救い」、「真実」、「摂受」である。

「教え」、「み仏」、「救い」は、教主さまの創った真如苑の根幹の部分ということができる。「真実」という語は、この時期、真実の行い、真実の道、真実の救い、のように、単なる行い、道、救いではなく、真実という修飾語が頻繁に付されている。「摂受」は、法華經の折伏に対する真如苑が依拠する涅槃教の基本的なお救け、布教方針を表す語であり、救いの形を示すことばである。

継承期に多い語は、「宇宙」、「大宇」、「創源」であり、これらのことばが表すところは、教主さまが帰られ、教徒を見守っている世界である。

継主時代に多い語は、「私」、「心」、「真如」、「自分」、「子」、「済摂」である。

この中で特徴的なのは、「心」、「自分」という自己を表すことばであろう。これらは、たとえば次のような形で現れる。

責める心、心の苦しみ、心の痛み、心から懺悔、心の浄化、心を洗う、  
自らの心に刻み、心の立て替え、自分本位の心、自分中心の心、執われていた自分、  
自分の執われ、自分だけの満足、自分勝手

真如苑の最も重要な修行形態である接心（せっしん）は、祈りの一形態であるといえるが、その目的は、祈りによって自己の心の曇りを磨くことであるように、心を洗い、自分の執着をなくし、円満な指導者となることを目指す真如苑の歩みが、近年強調されていることを示していると思われる。

「私」が多いのは、対談記事の増加によるものかもしれないが、今回の分析ではそれを確かめることはできない。また、「済摂」は、教祖の死後強調されるようになった教祖のお力に関わる救いの形の表現である。



## 4. 同時に使われることば

最後に KTCoder の出力する語の位置情報を利用する分析の一例を示しておく。

分析は、文単位で同時に使われることばを探索していく。今回は、基本的な分析にとどまるが、「教主さま」と「継主さま」に限定して、同じ文で同時に使われている語の一覧表を作成することを目的とする。その際、先に用いた時期区分を使い、教主時代、継承期、継主時代による変化があるかどうかを調べていく。

まず、400 号から 544 号までの全文の位置情報付きファイルを KTCoder を用いて作成し、仮に all.dat と名前を付ける。このファイルを all.txt と名前を変えて、データベースソフト Microsoft Access97 に読み込ませ、all という名前のテーブルを作成する。そこからクエリーを使って、400 号から 454 号までの教主さまが入っている文を選択する。そして、そこから位置情報を除いた、本文だけをテキストファイルとして外部出力し、仮に 454k.txt と名前をつけて、保存する。

保存したテキストファイルの先頭に<BODY>、最後尾に</BODY>のタグをつけて、454k.htm と名前をつけたテキストファイルとして保存する。これを再度 KTCoder にかけて語を抽出する。KTCoder が出力する 454k.mei ファイルを SPSS に読み込ませて、語の集計を出す。

こうした処理によって、400 号から 454 号までの教主時代のすべての『内外時報』において、「教主さま」が用いられている文に使われていることばの一覧を得ることができる。同じ作業を継承期、継主時代においても繰り返して行った。こうして得られた集計を各時代それぞれ上位 20 番目までを一覧表にしたものが、表 4 である。

この表から、各時代に使われる語は、あまり違いがないことがわかる。上位 3 つは、いずれも「教主さま」<sub>レ</sub>、「真如」<sub>レ</sub>、「摂受院さま」である。4 番目を見ると、教主時代は、「両法嗣」であるが、これは教主の死後使われなくなったことばであり、継承期の「常慧さま」も教主時代にはなかったことばであり、継主時代には使われなくなったことばであるので、他の時期に見られないのは、当然である。教主時代の 5 番目の「教え」は、継承期は 6 番目、継主時代には、5 番目にくる。教主時代の 6 番目の「私」は、継承期には、5 番目、継主時代には、4 番目にくる。「み心」は、3 つの時代とも 7 番目に見られ、「心」は、10 番目、9 番目、6 番目に見られる。このように上位 10 番目までのことばでは、各時代を通じて、7 つのことばが同じである。これらの語は、少し濃いめに網掛けをしてある。さらに上位 20 番目まで広げると、「教徒」<sub>レ</sub>、「救い」<sub>レ</sub>、「感謝」<sub>レ</sub>、「両童子さま」<sub>レ</sub>、「祈り」の 5 つの語が、3 つの時代ともに見られる。これらの語には、薄く網掛けをした。

それに対して、「継主さま」が使われる文を抽出して、使われる語の一覧を作成したのが、表 5 である。表 3 で確認できるように、「継主さま」は、継承期以降に使われる語であるので、教主時代の欄はない。また、継承期は度数が少ないが、とりあえず、継主時代とともに表 4 と比較することにする。表 4 と同じ語には、表 4 の網掛けと同じ種類の網掛けをしてある。表 4 で濃い網掛けをした上位 10 番目までに共通に見られた 7 つのことばのうち、

表5の継承期の上位10番目までには、「真如」、「教主さま」、「摂受院さま」の3つが見られ、11から20番目までには、「心」と「私」がみられる。表4で薄い網掛けをした上位20番目までで一致する語は、「教徒」のみである。継主時代では、濃い網掛けが上位10番目までには、「真如」と「教主さま」のみであり、20番目まででは、「私」、「み心」、「心」の3つが見られる。薄い網掛けは、「祈り」、「教徒」の2つである。

表4 「教主さま」と同時に使われることば

教主時代		継承期		継主時代	
抽出語	度数	抽出語	度数	抽出語	度数
教主さま	2114	教主さま	893	教主さま	1426
真如	390	真如	168	真如	699
摂受院さま	248	摂受院さま	116	摂受院さま	244
両法嗣	238	常慧さま	93	私	200
教え	210	私	84	教え	139
私	178	教え	78	心	97
み心	167	み心	68	み心	90
導師	154	宇宙	61	親教	89
教徒	144	心	57	教徒	76
心	140	両童子さま	56	救い	66
救い	129	教徒	52	継主さま	62
感謝	120	救い	50	遷化	60
喜び	100	感謝	45	真導院	60
み仏	99	大宇	42	祈り	58
両童子さま	95	遷化	38	定記	54
親教	85	創源	36	両童子さま	52
精進	85	すべて	31	姿	50
祈り	77	祈り	31	教導院	49
立教五十年	75	総合道場	30	大宇	46
総合道場	75	大願	29	感謝	45

表5 「継主さま」と同時に使われることば

継承期		継主時代	
抽出語	度数	抽出語	度数
継主さま	107	継主さま	716
雍主さま	40	真如	346
真如	36	雍主さま	184
教主さま	28	導師	135
導師	15	苑主	92
教徒	11	双親さま	65
支え	10	教主さま	61
み心	9	瑞教	52
教苑	8	執行	47
摂受院さま	7	教苑	47
苑主	7	祈り	46
心	7	私	43
み親	6	喜び	43
姿	6	み心	41
双親さま	6	真如苑	40
自分	6	教徒	40
真如苑代表役員	6	心	36
表裏一体	6	副導師	36
私	6	厳修	34
重責	6	悠音精舎	32

継主時代に上位にくることばのうち、「苑主」、「瑞教」、「執行」、「教苑」は、教主さまと同時に使われることばでは上位にこないことばであり、20位近くになるが、「副導師」、「厳修」などともに真如苑の法要において、儀式を施行する姿を思い起こさせることばが続いているように感じられる。

以上のことから、「教主さま」ということばは、教主の生前とそれ以降で同時に使われることばに変化が少なく、「教主」ということばの位置づけが、さほど変化していないのではないかと推測される。一方、教主の継承者である継主さまは、そのことばの使われ方では、「教主さま」に取って代わるものではなく、異なることばの群と同時に使われていることがわかった。

現在の KTCoder では、この節で行ったような処理をするためには、相当な手数とデータベースの操作に時間を要する。今後、さらに精密な分析が容易に行えるよう、改善していくことが必要である。

## 注

[1] その分析例は、第2部第1章第2節、第3節を参照。

[2] 対象とするテキストである『内外時報』は、真如苑の月刊の機関紙で、昭和25年に創刊された。毎月8日の発行で、1997年に550号を越えた。版はB5で、特集号以外は普通12ページ、4段組みが基本である。形式はかなり一貫しており、第1面に月毎の精進目標が示され、その後に亡き教主さまのご親教の抜粋かまたは、「今月におもう」と題されたその月に

ちなんだ教団の歴史のできごとなどが紹介されることが多い。第2面には、「内外ニュース」と題して、教団内のニュースの紹介が中心であるが、大きな社会的ニュースは、宗教に関係なくとも数行で紹介されたりする。3面以降は、教団内の行事を大きく取り上げてあることが多いが、教学用語の説明や教団の行事予定、信者の信仰体験も毎号のように掲載されている。つまり、信者が日常一番よく見るいわば新聞のようなもので、親しく読みやすく、信仰心の向上に役立つ紙面であることを目的として編集されている。

[3] 調べた号は、後の分析で用いる3つの時期区分を考慮して、選んだ。

[4] 「摂受院(しょうじゅいん)さま」は、真如苑の教主伊藤真乗(しんじょう)の妻友司(ともじ)のことで、教主とともに真如苑の創設に大きく関わった。また、教主と摂受院の2人をあわせて「双親さま」と尊称される。

「両童子さま」とは、教主夫妻の長男と次男のこと。どちらも幼くして亡くなっており、真如霊界の創造に深く関わっているとされる。とくに長男は「教導院さま」、次男は「真導院さま」と呼ばれる。

真如苑では、教主夫妻の三女と四女が後継者とされ、両者を併せて教主の生前は、「両法嗣さま」と呼ばれ、教主の死後「常慧(じょうえ)さま」と呼ばれた。とくに三女だけを指すときは、「継主さま」と呼び、四女だけを指すときは、「雍主(ようしゅ)さま」と呼ぶ。